

科目名	ものづくり実習 2						年度	2026	
英語科目名	Fabrication Practice 2						学期	後期	
学科・学年	建築設計科 1年次	必/選	必修	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	升水 健太	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		

【科目の目的】

・家具や構造物の制作を通して原寸大ものづくりの手順などを身につける。

【科目の概要】

ものづくり実習1で学んだ形態操作による造形力を活かし、ものづくり実習2では、身体寸法、機能性、荷重について考慮が必要な、椅子の制作に取り組みます。第二課題は、テーマを自由とした制作とし材料は、学科支給のダンボール板を共通の材料として使用する。

【到達目標】

- A. ダンボールチェアの基本的な知識や技能を習得し、計画性を 持って制作できる力を身に着けるができる。
- B. 様々なデザイン作品を鑑賞し、イメージを膨らませながら、自らのデザインによるアイデアのスケッチ ができる。
- C. 作品発表において作品についてのコンセプトを伝え、他者との意見交換ができる。

【授業の注意点】

授業時間中の指導、講義、作業に加え、授業外の時間での思考、検討、作業等、個々の到達目標に合わせて効果的に取り組むこと。各回、必要な道具 等が異なるので、忘れ物のないように事前準備の確認を怠らないこと

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	ダンボールチェアの基本的な知識や技能を習得し、計画性を 持って制作できる力を身に着けるが できデザインとして優れる。		ダンボールチェアの基本的な知識や技能を習得し、計画性を 持って制作できる力を身に着けるが できる。		計画性を 持って制作できる力を身に着けるが できない。
到達目標 B	様々なデザイン作品を鑑賞し、イメージを膨らませながら、自らのデザインによるアイデアのスケッチ ができデザインとして優れている。		様々なデザイン作品を鑑賞し、イメージを膨らませながら、自らのデザインによるアイデアのスケッチ ができる。		自らのデザインによるアイデアのスケッチ が できない。
到達目標 C	作品発表において作品についてのコンセプトを伝え、他者との意見交換が できデザインとして優れる		作品発表において作品についてのコンセプトを伝え、他者との意見交換が できる。		わがままで独断的な作品 となっている
到達目標 D					
到達目標 E					

【教科書】

毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は授業中に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

提出物、授業態度、平常点、などを総合的に判断する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		ものづくり実習 2			年度	2026
英語表記		Fabrication Practice 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	企画	世界の有名デザイン椅子の紹介	椅子の世界が分かる。	2	
2	発表		「私が好きな椅子」課題クラス内発表及び講評会開催	プレゼンができる。	2	
3	デザイン1	デザイン	「直材構成の椅子」のデザインを考える	デザインの方法を研究する。	2	
4	デザイン2		直材構成の椅子	直線構成の椅子を知る。	2	
5	模型1		モデル制作	模型を作る。	2	
6	模型2		モデル制作		2	
7	中間発表		「直材構成の椅子」作品展示・発表会（全員）・講評会	講評を受けてさらなる課題点を見つける。	2	
8	原寸模型1	模型	ダンボールチェア制作	制作にあたっての図面を起こす。	2	
9	原寸模型2		原寸モデル制作	段ボールを使い制作する。	2	
10	原寸模型3		原寸モデル制作		2	
11	講評会		ダンボールチェア作品展示	講評をして、他者のデザインを見て世界を広める。	2	
12	制作1	制作	ダンボールクラフト制作	椅子のブラッシュアップを行う。	2	
13	制作2		ダンボールクラフト制作		2	
14	制作3		ダンボールクラフト制作		2	
15	制作4		ダンボールクラフト作品展示・発表会		2	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他 自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった 備考 等						